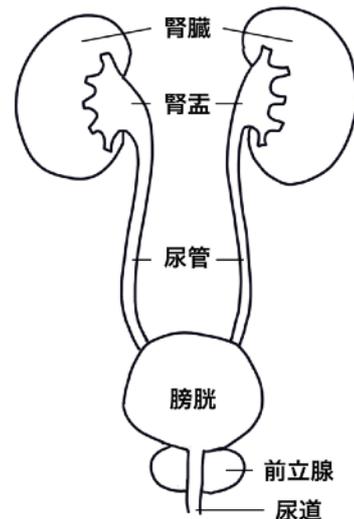


尿の通り道を「尿路」と言います。腎臓で作られた尿は腎盂、尿管を通過して膀胱にたまりまゝ。いっぱいになると尿道を通過して排尿されます。

腎臓と尿管をつなぐ構造が「腎盂」でここに感染すると「腎盂腎炎」になりますし、膀胱に感染すると「膀胱炎」となります。いずれも「尿路感染」です。

「尿は汚いもの」というイメージがありますが、実は通常、尿は無菌状態できれいです。老廃物が含まれるという点では「汚い」のかもしれませんが、菌はいないのが正常な状態です。



## 心臓血管外科★健康講座

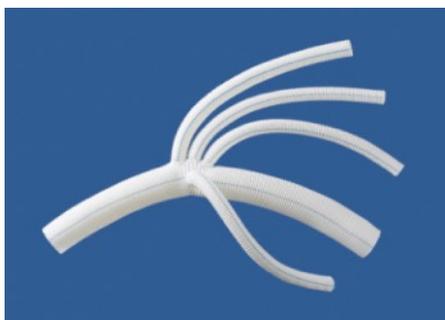
尿は、腎臓で生成され、尿管を經由して膀胱にたまりまゝ。一定量以上になると尿意を感じ、トイレで排尿をします。尿路に感染を起こすことを「尿路感染」と呼びます。



人工弁の例

岩手県立中央病院心臓血管外科では、身近な医療の情報を解説した健康講座を県民の皆さんに提供します。第22号は「尿路感染」です。

心臓血管外科の健康講座なのに、尿路感染？と思われたかもしれません。心臓血管外科の術前の検査では、必ず尿検査をします。当科の手術を受けられる方は高齢者も多く含まれ、高齢者の中には全く無症状ながら尿に細菌が含まれることが稀ではありません。通常、無症状の患者さんでは特に治療などはしません。しかし、心臓血管外科の手術では、人工弁や人工血管、ステントグラフトなど人工物を体内に装着するものも多く、尿に細菌が多数いれば、術後にそ



人工血管の例



尿道カテーテル

心臓血管外科の術後早期には尿量の計測が重要ですので、留置します。経過良好なら早めに抜去しています。



これらの人工物への感染を起こしかねません。術前に尿路感染を治療するようにしています。

また、術後には、尿道カテーテルが留置されるため、尿路感染のリスクが高まります。できる限り早期の抜去をするようにしています。

術後1週間以降に尿路感染を起こす高齢者も少なくありません。

術後数日すると大部屋に移ります。すると、排尿することで隣人に迷惑がかかる、看護師さんに迷惑がかかると気を使い、水分を控え、尿があまり出ないようにしてしまう方もいます。トイレまで行くこと自体を負担に感じて、そういう行動をとってしまうこともあるのでしょう。その結果、尿は濃縮され、排尿の頻度が減ることで尿路感染を起こしやすくなるものと推察されます。

周囲への思いやりの気持ちが、患者さんご本人を苦しめてしまうのはお気の毒です。どうかお気遣いなく、水分を必要な分しっかりと、尿意を感じたら我慢せずに出しましょう。

退院後も、尿路感染が重症化すれば、敗血症を起こし、人工物への感染もありえます。まめに水分をとり、清潔を保ち、尿路感染にならないように注意していきましょう。

岩手県立中央病院心臓血管外科

健康講座 第22号